



大西 さとる

東京都議会議員

【大西さとるプロフィール】 昭和36年生まれ。立命館大学経済学部卒、早稲田大学大学院修士課程修了。11年間のサラリーマン生活ののち、細川律夫衆議院議員公設第一秘書を経て、平成17年に都議選初当選。文教委員会委員長、オリンピック招致委員会理事、都議会民主党幹事長代行などを歴任。現在2期目、経済港湾委員会理事。

都議会民主党は

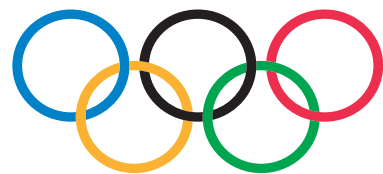
2020年オリンピック・パラリンピック 招致に全力を尽くします！

Topics1『オリンピック招致に向けて』

私は、2020年オリンピック・パラリンピックの東京招致の実現を目指し全力で頑張っているところです。オリンピックは、その場にいることがテレビを通しての応援よりはるかに大きな感動を得ることができます。1996年にアトランタオリンピックが開催された時に、私は民間企業の仕事でアトランタに赴いておりました。日を重ねていくうちに、街の空気の色が変わっていく、そんな錯覚を覚えるようになりました。最終日の閉会式の日には、人種や肌の色の違いを越えて、知らない者同志が抱き合う、そのような大きな感動も体験することができました。そんなすばらしい感動を東京の子供たちにも味わってもらいたい。皆様にも体験してもらいたい。その想いで招致を実現する為に、全力を傾けているところです。その場に居なければ分からないような、言葉では言い表せない素晴らしい「感動！」を是非とも体験して欲しいと思っています。



TOKYO ● 2020
CANDIDATE CITY



「今、オリンピックをする他にやることがあるだろう」というネガティブな意見を言う人がいます。しかし、オリンピックが来ても来なくても、やらなければならない事柄はやらなければならないです。要は、オリンピックだからと、ドサクサに紛れて無駄な投資を行わせないように厳しく目を光らせることが必要です。経済効果もあるでしょう。それ以上に、子供たちに大きな感動を与えることができるオリンピックです。

私は、何としてでも東京で2回目となるオリンピックを開催したいという信念でオリンピック招致に取り組んで参ります。

Topics2『東京・日本に活力を与える！』 Topics3『被災地復興につなげる』

【ロンドン大会の感動を日本で】

東京が招致する意義の大きな一つは、オリンピック・パラリンピックがもたらす感動が、次世代を担う若者たちに夢や希望を与え、活力あふれる社会を生み出すことです。

昨夏のロンドン大会での感動を、次は東京、日本で実現させ、日本の真の復興につなげていくことができます。

【経済効果3兆円！雇用創出15万人！】

また、大会開催により、東京都だけでも約1兆6,700億円、日本全体では約2兆9,600億円もの経済波及効果があると予想されています。さらに、雇用では全国で約15万人（都は8万4千人）の創出が見込まれています。

このように、大会開催によって、経済・雇用の面からも東京と日本に活力を与えることができます。



◀平成24年8月20日、ロンドン五輪の日本人メダリストらによる銀座パレードが行われ、50万人もの観衆が集まり、声援を送った。

Topics4『新国立競技場に期待！』

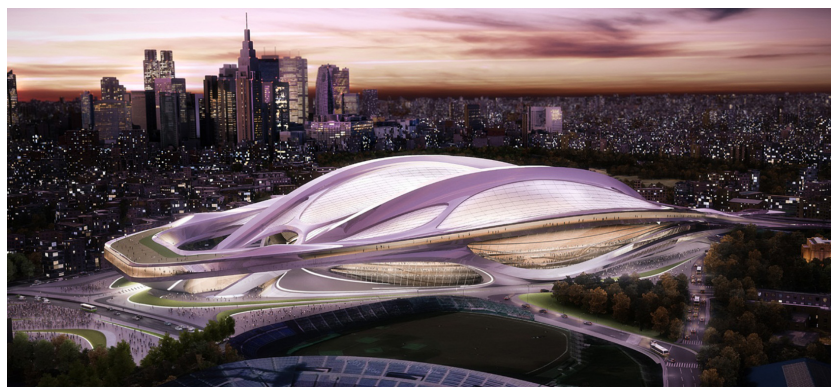
【オリンピックスタジアムは国立競技場で】

2020年招致では、国立霞ヶ丘競技場をメインスタジアムとする招致計画となりました。

前回の2016年招致では、晴海地区に都立のメインスタジアムを新設する計画でしたが、私たちはその計画に疑義を唱え、過大な社会資本整備を行わないよう都に求めてきました。今回は、要望通り、既存施設である国立競技場を活用することとされました。

【新国立競技場の大きな可能性】

一方、現在の国立競技場は、老朽化、スポーツのルール変更、大会の大規模化などに対応した建て替えが必要です。平成25年度から基本設計に入る予定ですが、スポーツ以外にも大規模コンサートなどの文化・芸術イベントや、災害時の避難拠点としても活用できる、都民・国民にとって有益な複合施設へ生まれ変わることが期待されます。



▲新国立競技場の外観イメージ。

【招致を被災地復興の力に】

日本の復興」をテーマとする今回の2020年招致だからこそ、東日本大震災の被災地に向け、スポーツを通じて若者に夢や希望を与える支援経済的な支援など、具体的な支援につながる大会開催となるよう、私たちは東京都に求めています。



【具体的な支援策として】

復興専門委員会で検討された結果、オリンピック・パラリンピック両大会の開会式での点火に向け、被災地を縦断する聖火リレーの実施、宮城スタジアムでのサッカー予選リーグの開催、大会組織委員会が行う大会準備・開催に必要な物資や資材の調達・工事などの被災企業への優先発注など、その他様々な被災地支援につながる事業案が最終報告に盛り込まれました。

Topics5『誰もがスポーツできる環境を！』

【障害者スポーツとバリアフリー社会の実現】

障害者スポーツの推進には、普及啓発、場の開拓、指導員の確保など、様々な取り組みを進めていく必要があります。そうした中、2020年パラリンピックの東京開催は、障害者スポーツの普及と、バリアフリー化の促進で共生社会の実現に大きく寄与するものと考えられます。

【世代を超えたスポーツ環境づくり】

東京都は、都民がスポーツに親しめる環境を整備するため、2020年までの「東京都スポーツ推進計画」を新たに策定しますが、子育てや働く世代、高齢者世代など、あらゆる世代が参加しやすいように、地域スポーツクラブの取り組みを支援するなど、私たちは、環境整備に向けたきめ細かな対応を、引き続き東京都に求めてまいります。

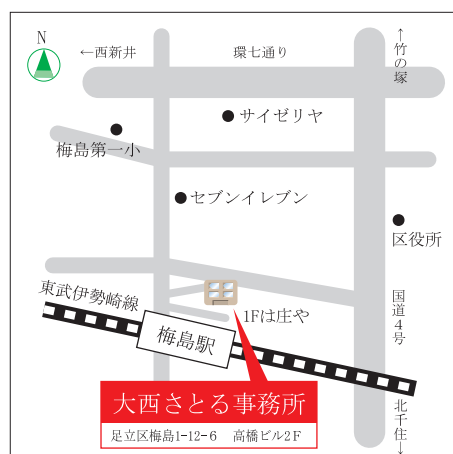
Topics6『見通し』

ただし、現在の招致活動で、必ず勝てるかということ、そうではありません。IOC（国際オリンピック委員会）評価委員会訪問で、東京都は万全の対応にて高い評価を受けたと表していますが、マドリードは4回目、イスタンブールは5回目の挑戦となります。当然それなりの対応をしていると考えられます。111人のIOC委員の出身地域を詳しく見れば、今の票読みでは明らかに劣勢です。

また、この春封切られる「007」はイスタンブールが舞台です。これに何らかの意図を感じるのは私だけでしょうか。

『事務所のご案内』

梅島駅に事務所を開設しております。都政に関するご意見、ご要望など、お寄せ下さい。



大西さとる 事務所

〒121-0816 足立区梅島1-12-6 高橋ビル2F <http://onishi-satoru.jp>

TEL. 03-3849-7847 FAX. 03-3849-7846 ご意見・ご要望をお寄せ下さい